

1, 000, 000mmの集いの場



天川美里
建築設計計画 | 研究室

□コンセプト

私は徹底された歩車分離によって交通事故が増える場合もあると考えている。その理由は、歩行者、自転車、自動車、がそれぞれの決められたレーンを通ることで安心し、ついスピードを出しすぎてしまうからだ。

今回私が提案する歩行者、自転車、自動車、新たな乗り物 LRT が共存した広場のような道路は一見危ないようにみえるが、それぞれが相手のことを意識することで自転車や自動車は減速をして、歩行者は自転車や自動車、LRT に気を付けることで事故は減り、道路が賑わい、街に活気を取り戻すことができる。

□プログラム

敷地は JR 宇都宮駅から西に続く大通りの一部。この辺りは昨年 5 月にパルコが閉店し、日々賑わいが薄れている。道路は片側 3 車線、幅員も 30m と広く、見晴らしがいいが故にスピードを出しすぎてしまうドライバーも多い。

そこで私は LRT や自転車利用率を増加させることで空いた 2 車線分の道路を広場のような空間にする計画を提案する。

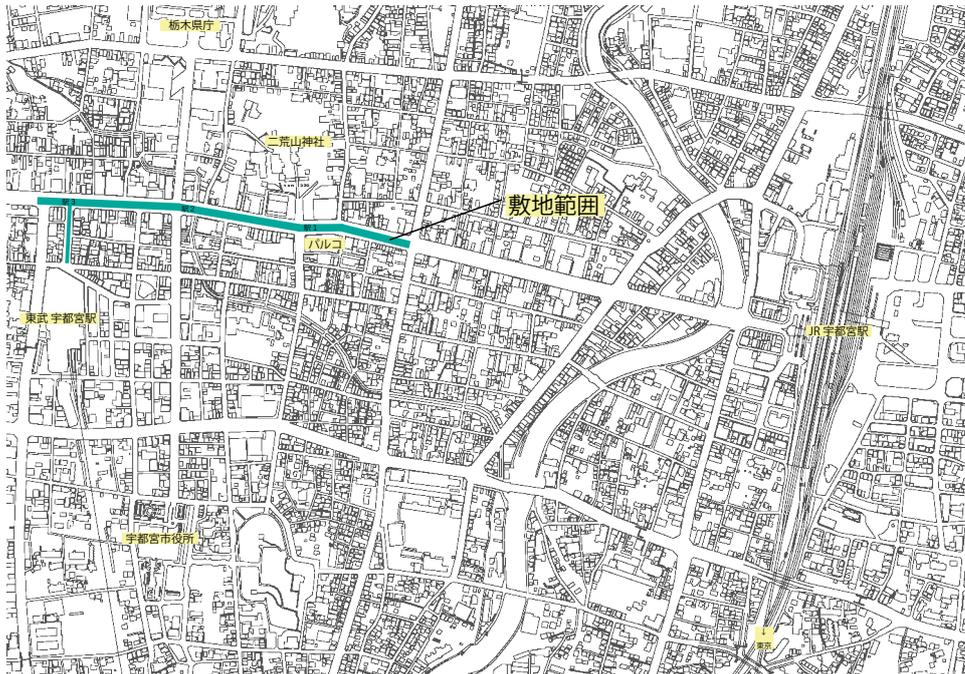
この計画を行うことによって、自動車や自転車の速度を落とすだけではなく、広場のような空間に再び人々が集い、宇都宮市を再び賑わいのある街へと生まれ変わせる。

□デザイン

広場は LRT の駅で区切られた 3 つのエリアに分けられている。

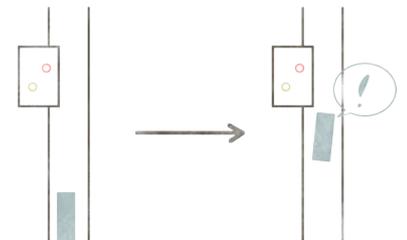
1 つ目のエリアが芝生や噴水からなる一般的な広場のような空間。2 つ目のエリアがスポーツに特化したエリア。3 つ目のエリアがデッキやボードゲームコーナーがあり、イベントなどが盛んに行われるエリア。

3 つの駅もそれぞれデザインされている。コミュニケーションが増えるようにつくられていて、つい降りたくなるような仕掛けがたくさんある。



□ダイアグラム

なぜ危なくないのか



道路にあふれでた家具や人々がボンエルフとなる。人がいるとき、いないときでも自転車や自動車のスピードは変化し、ドライバーは必要な分しっかり減速する。





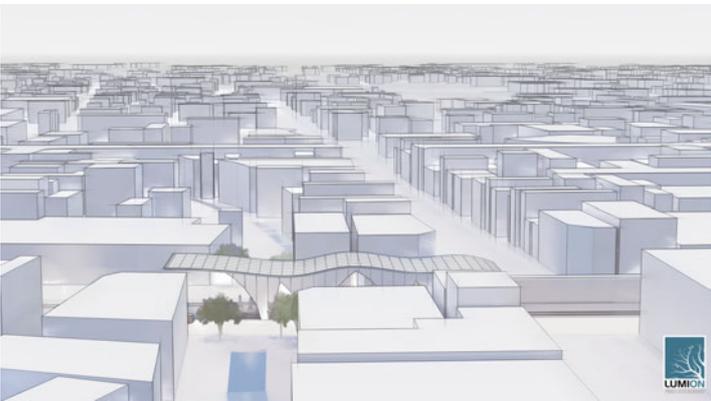
駅 1

二荒山神社の鳥居をイメージした宇都宮のシンボルのような駅。パルコと繋がっているため、再びパルコが新たな商業施設として生まれ変わった際に賑わいの場となる。



駅 2

心地のよいソファとカーテンがある、眠くなるような駅。近くにスポーツをメインとしたエリアがあるためスポーツをした帰りや、市役所や県庁からの帰りに疲れて LRT を待っている間にこのソファに座ってうっかりうたた寝をしてしまう。LRT がきた際には周りの人に起こしてもらうことで新たなコミュニケーションが生まれる。



駅 3

東武宇都宮駅と駅 3 を結ぶ橋のような建物は駐輪場、駐車場、イベントスペースを備えているコンコースのような場所。東武宇都宮線が近くにあるため駐輪場や駐車場をつくり、さまざまな乗り物から乗り換えることができる駅になっている。

